

インドネシア・スタディツアー 参加学生の声

・初めての海外は、刺激的で新鮮な経験ばかりでした。出発前には緊張もしていましたが、実際に現地を訪れてみると、インドネシアの方々の優しさに触れ、すっかり打ち解けていました。体調不良になっても、先生が常に付き添い、温かく支えてくださったので安心して過ごすことができました。

・今回の研修は、岡橋先生の授業やゼミで学んできた内容を、実際の現場で考える機会となりました。国外フィールドワークを通じて、自分の視野が広がるのを確信するとともに、フィールドワークの重要性を身にしみて感じました。現地の方々一人ひとりの思いや価値観に直接触れた経験から、机上の学びを超えてタイプでリアルな部分に届くことができたと思います。

・先生のネットワークがなければ会うことのなかった方々との貴重な出逢いがありました。現地で活躍する方々やユネスコ関係者と直接お話しする機会をいただき、新たな人との繋がりが生まれました。自分で各地へ旅をすることがあっても、個人旅行では得がたい経験の連続で、大学の海外研修の意義を強く実感しました。人生の中でも特に濃い時間になったと感じています。

・文化とは人間の心や生活を支えるものであるとあらためて思いました。比較文化の視点が具体化し、新たな問いが自分の中に生まれ、将来にも繋がる問題意識を得ることができました。現地で感じたこと、あらたに習得した視点を、今後の研究にも活かし、深めていきたいと考えています。このような機会をいただけたことに心より感謝いたします。

・バティックやガムランの体験、住民の方々との交流を通して、無形文化遺産は人々の日常の中に息づいているのだと感じました。現地を見て、聞いて、対話することで、文化を受け継ぐとは何かを主体的に考えるようになりました。

・インドネシアのジョグジャカルタ周辺の地域社会では、宗教が日常生活の中に自然に組み込まれている様子が印象に残りました。これまでの自分の生活環境と比較しながら、宗教と社会の関係についてあらためて考えるきっかけになりました。

・世界最大級の仏教の聖地、ボロブドゥール寺院を実際に訪れ、保存管理に携わる方から直接お話を伺えたのが有意義でした。朝の清掃や彫刻の苔除去作業も

目の当たりにしました。ビジターの70パーセントはインドネシア国内観光客とのこと。一日4000人まで許容する中、巡礼者の時間と一般観光客の時間を分けていることや、石材にやさしいウパナトというサンダル購入を入場者に義務化してこの収益を製作者の近隣村々へ直接還元していることを知り、保全側の観光マネジメント努力にも感銘を受けました。また、これまで学んでいた「持続可能な観光」とは、地域の生活や誇りと深く結びついてこそ成り立つことを実感しました。

- ・世界遺産の現場でサイトマネージャーや地元で生まれ育った公認ガイドの説明を受け、現代における文化遺産が保存や観光、地域社会との関わりの中で成り立っている様子を具体的に理解しました。立場の異なる人々がそれぞれ自らの文化や地域景観をどのように理解し、どのように来訪者に語ろうとしているのかも直接知ることができました。歴史や文化的文脈をふまえて初めて、遺産の価値が浮き彫りになってくることをあらためて認識しました。

- ・世界遺産を単なる観光地としてではなく、周辺に住む人びとの社会やそこに関わる人びとの人生があるところとしてみるようになりまし。そして、土地と人との両方に関わることによってその国をより深く理解するきっかけが得られることを感じ、人との縁を大切にしていきたいと思いました。また、もっと共通語としての英語を頑張ろうとも思いました。

- ・カンディレジョ村でガムラン演奏をさせてもらい、初めて会った村の人たちと一体となって音楽を作り上げたことは、音楽が好きな私にとって素敵な思い出となりました。

- ・現場見学で実践的な学びを得たのち、最終日にインドネシア国立博物館を訪れたことで、それまでの印象や体験と知識とが結びついて、情報がより鮮明に入ってくる感覚がありました。

- ・移動中に仲間や先生と意見を言い合ったり、毎晩皆で一緒に振り返りをしたりした時間が、いい時間でした。一人で考えるだけではなく、同じ分野を学ぶ仲間と同じ対象を見て学び、それぞれの関心や視点を共有し合えたことは、この研修の中でも特に重要な点であったと思います。特に、プレゼンテーション準備のため学生同士で対話を重ねていたとき、皆で力を出し合う充実感を感じていました。

・ユネスコ・ジャカルタオフィスでの成果発表は緊張しましたが、職員の方々から温かいフィードバックをいただき、大きな達成感と自信を得ました。通常のコムフォートゾーンから出て世界を発見するこのような機会に学生のうちに恵まれたのは大変ラッキーなことだ、とユネスコの方に言われました。大学からこうして世界に挑戦できたことを誇りに思います。

・帰国直後に就職活動の最終面接でゼミでの学びについて質問を受け、今回の研修の話をしました。面接官から「初めての海外でこのような経験ができたとは素晴らしい」と言ってもらい、自信を持って取り組んだ活動による学びが意義深いものであったことを実感しました。